

結 果 報 告

大会名	平成28年度第68回日本ハンドボール選手権大会				
競技日	12月23日(金)	試合番号	チ	回戦	準々決勝
種別	男子・女子	会場	(男子) 八王子・駒沢体育館		
Aチーム			Bチーム		
大崎電気			トヨタ紡織九州レッドトルネード		
得点合計	小計		小計	得点合計	
33	16	前半	12	27	
	17	後半	15		
		第1延長(前半)			
		第1延長(後半)			
		第2延長(前半)			
		第2延長(後半)			
		7mTC			

【 戦 評 】

記載者氏名

鈴木 慎二

ベスト4入りを賭けた日本リーグ勢同士の対戦。直前の1月前の中断直前のリーグ戦では、20-20の引き分けに終わっており、リーグ戦の成績(大崎:3位、トヨタ紡織:8位)通りの結果になるか注目される一戦。開始32秒に紡織No7津山のミドルシュートで先制するも1分43秒大崎No14岩永の速攻で返す。紡織は、津山、No3田中、No15田中のミドル・ロング、No22酒井のポストが絡みゲームを組み立てるが、大崎は、No24信太、No25元木、岩永らの卓越した個人技を中心に多種多様なパターンで得点を積み上げる。20分に大崎は、10-8の所でタイムアウトを取り引き離しにかかるが途中大崎に退場者を出した事もあり、前半は大崎16-12で終了。後半は、大崎・紡織とも取ったら取り返す応酬となる。大崎は、得点を取られれば直後の攻撃で必ずリスタートの速攻などで流れを渡さず、No5田中のミドル連取で追いすがる紡織に後半9分に24-18と6点差をつける。ここで紡織がタイムアウトを取り流れを変えようとする。7点差とされた15分31秒で大崎No15夏山がNo13柳に続いて2人目の退場となり紡織は点差を詰めるチャンスを迎える。ここで紡織No6中本の速攻の1点に抑えた大崎であるが、No8東長濱がCP6名に戻った直後に退場し、その7MTを決められ18分に26-21の5点差に詰め寄られる。しかし、ラスト10分で大崎がGK木村を中心に終始打たせ所を心得たDFを展開し地力の差を見せ順当に33-27で勝利。ベスト4に名乗りを上げた。